
ネット小説の読者として

シレン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネット小説の読者として

【Nコード】

N4144W

【作者名】

シレン

【あらすじ】

このページをご覧の皆さまへ

はじめまして、シレンと申します。

私は作家ではございません。

しがないネット小説ファンでございます。

皆さまネット小説家の方々のご好意により今日もネット小説を楽し

んで居ります。

以下の各稿はネット小説読者としての雑感を綴った物です。
作品の感想欄に投じるには自己主張ばかりといったときにも使います。

何卒よろしくお願いいたします。

【お断り】（H. 23. 10. 23 追記）

当エッセイに於て、対象を私個人とする限り如何なる批判も慎んで承りますが、他の作家の方々を（直接間接を問わず）対象とするご意見については（当エッセイの趣旨と異なる場合）その限りでないことを予めお断り申し上げます。

作者の敵は俺の敵（前書き）

白虎隊や少年兵の事跡や遺書を読めば10代でも立派な人物が存在することが判る。

今の世情（政治や事件）を見れば、還暦過ぎてもガキ未満のロクデナシが多く存在することも判る。

作中の人格設定の不自然さ（というより、一読者の個人的な違和感）など、現実社会に満ちている不条理を考えればとるに足らない程度だと思う。今まで読んだどの作品の登場人物も現実には比べればむしろ穏当な性格をしているとさえ思えるほどだ。

当に「事実小説より奇なり」なのである。

現実社会とかけ離れた己が理想を他人の作品に求めるのは如何なものか？

作者の敵は俺の敵

私は作者様の敵の敵です。

多くの読者（勿論私もその端くれ）が楽しみとするところであるお話の更新が、作者様の創作意欲を削ぐような心無い（独り善がりの、酷いときには単なる攻撃欲求の充足を目的とするかのような）書き込みによって、滞り或いは作者様が本意とするところではない形での修正や変更が生じることは、お話を楽しみにしている読み手にとってもまた不本意なことだと思っています。

今まで幾度も心無い人達の攻撃によって作品を削除されたり、創作活動を断ってサイトを閉鎖しまわれた作者を見てまいりました。本当に悔しく残念でなりません。

他方では、

「作品公開したことが恋人を得る機会となり、（交際を含めた）実生活が充実して作品継続に割く時間なくなったので更新しません」という作者様がいらっしゃいました。続きが読めないのはとても残念ですが、その一方で「よかったですね、今までありがとうございました」と拍手を送りたい気持ちであったことも事実です。

休筆や断筆は申すまでもなく、作者様が自由に判断し、実行されることでもあります。

ですが、その判断に悪い形で読み手の積極的行為が関与して欲しくは無いと強く思っています。

読み手である私は、作者様が無理の無い配分で思う存分に筆を進め

ていただければ願っております。

有体に言えば、

「早く続きが読みたいんだ！」

「下らんクレームなら他（ネット小説以外）で遣ってくれ！」

「人の楽しみを邪魔するな！」
です。

作者の敵は俺の敵（後書き）

と言うことで、独善的な己が理想を徒に他人の作品に追求する行為は控えた方が良い。

であれば、むしろ自身の創作で思う存分己が理想を追求すればよいのである。きっとその作品は批判対象作品を凌駕する傑作となることだろう。

でも私とその作品を面白いと思うことは無いのだろうなあ〜と思います
つつ……

作者は神！（ファンタジーに学ぶ）（前書き）

一寸神憑っているようなところがありますが、怪しい宗教の勧誘や高額商品の営業とは全く無関係な内容ですので、その点だけは安心して読み進め頂ければと存じます。

作者は神！（ファンタジーに学ぶ）

作者は神！

（ファンタジーに学ぶネット小説における作者と読者の関係）

物語を創り出す作者は、その世界の創世神です。

はっきり断言します。作者は神なのです。

作者が神であるならば読者は民。

何を馬鹿なことを……と思われるかもしれませんが間違い無いことなのです。

これはもう絶対の真理なのです。

民（読者）の無い世界（作品）は存在し得ても、神（作者）無くして世界（作品）は無く、世界が無ければ当然に民（読者）も存在し得ないのであります。ですので作者は創世神、作品は世界、そして読者はその世界に生きる民と言うことになります。

さて、神の力は神を慕う民の数とその信仰の深さに比例すると言うのは、ファンタジーのお約束です。

私は作者と読者の関係も全く同じ関係だと思うのです。

物語の続きが気になる、更新が待ち遠しい、読者であれば当然のこ

とですね。

これをファンタジー風に表現すれば、「民は神の恵みを求めている」と言う訳であります。

勿論神さまも色々でしょう。何処かの偉い人が言っていました「人生色々、会社も色々」と言う奴ですね。

熱心な民が多くいても岩戸隠れ（休筆・断筆）してしまう神さまも、また民の動向に揺らぐことなく慈愛を注が（更新を続けら）れる神さまもいらっします。

ですが、概して申し上げられることは、心から崇拜する民を可愛いとお考え下さることこそあれ、煩わしいとお考えになることは先ず無いだろうということです。ファンタジーのお約束なのでから……

そして可愛い民の存在が神さまの慈愛（更新）を邪魔することは少ないでしょう。

勿論、その信仰のあり方が正し限りにおいてですが（最良の引き出しと言う言葉もあります）……

もしかしたら、民として何が正しいのか難しいと思う人もいるかも知れません。

然しながら、そもそもご神意に副い奉るべく努力するのは民の務めです。

だから、民たる者は神さまの御心に心を砕くことを常としなければなりません。

和やかな雰囲気が好きで神さま、ご注進が好きで神さま、争い事が

好きな神さま、辛口批評が好きな神さま、民の干渉を厭う神さま、将に八百万の神々です。

無闇に媚び諂うことを好まれる神さまは稀でしょうが、さりとてご神意を真っ向から無視して独り善がりに暴走する民を好まれる神さまもまた少ないことでしょう。

自分の住む世界を創り出してくれた神さまへ感謝の真心を届けるには上辺だけでは、手抜きをしてはいないのです。

やはり相応の、ご神意を紐解く不断の努力が必要なのです。

……と、クドクドと書いてしまいましたが、結論を申し上げますれば、

「作品や活動報告、感想への回答等へアンテナを高く掲げ作者さまの嗜好に思い及ばせ、その意に副う形で感謝の表現を考えましょう」と言うことです。

作者さまの創作意欲を削ぐような言動は厳に慎まなければなりません（読者であるならば）。

岩戸隠れで困るのは天照大神ではなく周囲であったことを、我が国最古のファンタジーが教示しているではありませんか。努々忘れてはいけないのです。

さあ読者たちよ！岩戸隠れに臆病であれ！！！！

（当世風に表現すれば「空気読め！！！！」と言うことです）

繰り返します、「民（読者）等よ、神（作者）を敬え！！」と、

作者は神！（ファンタジーに学ぶ）（後書き）

と言うことで結論は前回と全く同じなのでございます。

文句言うな！（前書き）

まさかのお気に入り登録ありがとうございます。

文句言うな！

作品には付物の「誤字脱字」！

仕方ないのです。自分で打ち込みしていればすぐ分ることなのですがタイプミスや変換ミスは避けられません。

職業作家であれば編集者や専門の校正担当が居ます。ですが殆どのネット作家は一人で兼ねているのです。

作者の限りある貴重な時間です。

読者の皆さまへ。

その限りある貴重な時間を創作活動に傾けて欲しいですか？
それとも校正作業に傾けて欲しいですか？

答えは明らかですね。

読者が求めるものはお話の「続き」であって、文章の「完璧さ」では無いのですから……

なに？

校正作業にこそ全てを注いで欲しいだろ？！？

そんなこと言う馬鹿はネット小説を読む資格は無い！！！！
一人で国語の教科書でも読んでろ！！！！

迷惑なのでもう二度と此処（ネット小説の世界）に戻って来るでないぞ。

私としては、作品を読取（解読す）ることが出来るだけの完成度があれば充分なのです。

あとは、

校正の度合いが高ければ、

「丁寧に作品を仕上げている作者」

誤字脱字や単語の誤用が目につく作者は

「更新を心待ちにしている読者を優先」

どちらであっても、またその中間であっても
何れにしてもありがたい限りであります。

さて、作者さまには申し訳無いのですが誤字には楽しみ方がありません。

★ローマ字変換

「お願いします」本当は「お願いします」ですね。

これはローマ字変換入力の場合子音の ” S ” を打ちもらして
しまったため 「し」⇒「い」となったタイプミスです。

「はい、しうします」本当は「はい、そうします」

母音の ” O ” を間違って隣にある ” I ” キーを打ってしまったときのミスです。

他にも沢山ありますが、ローマ字変換典型のタイプミスと言うのは慣れると本当は何だったのか想像出来るようになります。

私は、「ああこの人はローマ字変換」で作成しているのだなぁと作品を通じて作者の姿を垣間見るようで、等身大の個人としての作者を感じたような、なんとなく暖かい気持ちになるのです。

★かな入力

「そけで」本当は「それで」

隣接する「れ」と「け」の打ち間違いです。

私は「かな入力」が出来ないので、「あっかな入力だ」と思うと一寸尊敬なのです。

★まとめ

人によって打ち間違いのパターンがあります。

筆跡鑑定のように調べるのはストーリーカと同じで気持ち悪いのですが、

「そう言えば以前にも同じ打ち間違いがあったなあ」

程度の感想を持つことは許されるでしょう。

誤字脱字を鬼の首を取ったように騒ぎ立てる位ならむしろ、人として生活されている等身大な作者の姿を思い浮かべ、暖かい気分になるの方が読者として健全だと思います。

有体に言えば

「誤字脱字位で馬鹿みたいに（下らない粗搜しで）騒ぐな!!」

「作品を届けて下さるだけでありがたいと思え!!」

「ネット小説と国語の教科書を混同するな!!!」

「補完は読み手の甲斐性だ!!」

と言うことです。

【補足】

今回の誤字脱字はネット小説の補完よりもPCメールで常態化しています。

それを、ネット小説に持ち込んだに過ぎません。

でも、仕事のメールで補完作業していても楽しくは無いの（普通）です。

文句言うな！（後書き）

次回は、今までのような批判ではなく、
とあるネット小説との出会いの一場面をお伝えしたいと存じます。

ご覧下さいましてありがとうございました。

今其処に在る幸せ（前書き）

この曲を聞きながら綴ってみました。

<http://www.youtube.com/watch?v=ddhUkm1CqHKU>

「愛の喜び」JOAN BAEZ

もしよろしければBGMとして聞いて頂けると嬉しいです。

今其処に在る幸せ

今其処に在る幸せ

（素晴らしい日々の思い出）

毎日が輝いていた。

その日その日を過ごすことが楽しかった。

ハラハラドキドキ、怒り泣き微笑んだ。

そんな日々が確かにあった。

しかし突然、あの人は去ってしまった。

もうあの躍動感は味わえない。

戻って来て呉れるのではないか。

私に出来ることは只待つことだけだった。

季節は移り変わって行く。

解っている。もう戻ってくることは無いのだろと。

だが待ち続けている。

奇跡が起こったその時を見逃したくはない。

それに、あの躍動感は失ったけれども
あの人の残したものは確かにある。

何もかも無くした訳ではない。

そう、思い出の縁は確かにある。

何もかも無くした訳ではない。

あの人は何もかも消し去ってしまった訳ではない。

突然に全てを失った悲しみを覚えているか。

悲しみと後悔に打ち拉がれたあの時を覚えているか。

そう、思い出の縁は確かにある。

あの人は何もかも消し去ってしまった訳ではない。

それは、今でもひっそりと、でも確かに残っている。

そう、残して居て呉れたのだ。

だから、待ち続けている。

それだけでも幸せな、ありがたいことではないか。

思い出の縁に浸りながら、待ち続けている。

そう、確かな記憶が今も形として残っている。

それだけでも満たされる確かなものがある。

素晴らしい日々と、思い出の縁を残して呉れたあの人に尽くせぬ感謝を。



更新が止まって久しいサイト、今も時折訪れています。

A K A N E ' S F A N T A S Y R O O M

これを綴るに当たり、数年ぶりに訪ねてみました。

<http://www.geocities.co.jp/Bookend/7521/index.html>

パソコンを替えてもブックマークは代々写しているのです。

今其処に在る幸せ（後書き）

雰囲気盛り上げるためイメージに近い曲を流していたのですが、逆に曲に引寄せられ、前回お知らせした内容から逸れてしまいました。

音楽の力って物凄いですね。主体性の無さはもとより自覚しているので、この場合は音楽の力を賞賛することにします。

人を動かすのは理屈じゃない。

優れた文芸作品や音楽にこそその力が宿っている。

そう思うのです。

素敵なお話を届けて下さる全てのネット作家に感謝を

とあるネット小説との出会い（前書き）

BGM：福山雅治　Squal
http://www.youtube.com/watch?v=OS2cUknxr3M

とあるネット小説との出会い

何年か前のことです。

その日は少し疲れていたので職場を抜け出してネット喫茶で休憩（仮眠）していました。

流れているBGMで一寸良い曲だなあ〜と思ったのが福山雅治さんの Squal でした。

その時は歌手も曲名も知らなかったので、覚えていた歌詞の断片からネットで検索しました。どうやらとても有名な曲みたいです……

さて、曲を探し出して繰り返し聞いていた何日か後のことです。

偶然辿りついた小説サイトのお話がこの曲にピッタリではありませんか！！

ヒロインの切ない気持ちが本当に直球ど真ん中といった感じで嬉しくなり、初めて訪れたサイトでしたが、思わず作者の方にお伝えしてしまいました。

どうなることやら…と思っていたところ態々その曲を探して聴いて下さったのです。

感想？

作者の方も曲には感じ入って下さったようで、それが縁でその後も時々メールを交換しております。

仕事で忙しかった時でしたが、とても癒されるお話でした。

作品中の登場人物の言葉です。

>「ねえいとやん。人を好きになるってのは難しいよね。両想いつてホントに凄いことなんだよね」

>「自分がいくら相手のことを好きでも相手が自分を同じだけ好きになってくれるなんて、考えてみればもの凄いことなんだ

人と人ではありませんが、お気に入りの話と出会うことも凄いことだと思うのです。

その時の私は、お気に入りの曲を見つけ、その曲とイメージがピッタリのお話と出会い、そしてこの科白を見出し……凄い偶然です。

多くの作家が集まる此処ではそんな出会いが数多く在るのかもしれませんが、それでもやっぱり出会いは素敵なことだと思います。

この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

「どくだみチャンプル」のたま様、素敵なお話をありがとうございます。

とあるネット小説との出会い（後書き）

今回紹介したお話は

■ラブ・パレード■

h t t p : / / t a m a . n o m a k i . j p / r a b u
p a t o p . h t m l

どくだみチャンプル

x. h t p : / / t a m a . n o m a k i . j p / i n d e

です。

なんか、ドラマの光景を見ているようなそんな錯覚を覚えるお話が読めるサイトです。

余話：人生はファンタジーの方が良い（前書き）

今回は私事です。

余話…人生はファンタジーの方が良い

知人の父君が亡くなられ、昨日（10／6）告別式に参列してきました。

商店街の中にある自宅で行われた仏式の葬儀でした。

冠婚葬祭、特に葬儀は村八分でさえも例外になる大切な儀式です。人間死ねば皆神仏になるとよく言われますが、本当にその通りな気がしました。

小さな店が並ぶ昭和の佇まいを色濃く残すその商店街はそれなりに活気があるようですが、告別式は朝9時からで、シャツターが落とされたままか開店準備中の店ばかりでした。

さて、殆どの参列者は式場から溢れて、開店前の商店街に立っていました。

互いに顔見知りも居るのですが、主役は故人です。

偶に立ち話が交わされるものの、式の進行を黙として見守る人ばかりでした。

1時間半ほど、商店街に立っていたのですが、感激したことがあります。

まず、葬儀の場を通過する自動車やバイクは皆何か遠慮がちに通り過ぎてゆきます（人が多いので徐行していると言うだけでは無い様に思えました）。

また、拡声器を使っている回収車も葬儀場となっている故人と喪主の自宅近くを通り過ぎるときは音を消していました。お陰で読経の声が妨げられることなく、式は進行しました。

更に驚いたこと（この余話を記さずに居られなかった直接の動機となった出来事）は、儀場の前を通過した一人の男性が正面で足を止め、手を合わせて故人に一礼して通り過ぎたのです。また、あるスクーターはエンジンを止め、儀場の前を押して通り過ぎてゆきました。

関係者と知人だったのでしょうか？ 私はそうは思いませんし、そうは思いたくありません。葬儀に対して、その人は自然にその様に振舞ったのだと思いますのです。

二人とも質素な普段着で決して豊さを連想させるような身なりではありませんでした。

しかし、その瞬間、その立ち居振る舞いからはとても尊い何かを感じ、深い感銘を覚えたのです。

立派な身なりや、上手い装い、歩く姿勢の美しさといったものは確かにあります。ですが、その時の二人からはそのような目に見える何かとは明らかに異なるものがありました。

見ず知らずの故人であっても、そこで手を合わせて一礼する、下乗する。

神仏や高貴な存在の前をそのまま通過することは礼を欠く行為である。

確かに私も礼儀作法の一つとして、知ってはいました。

でも、それを日常生活で実践するということでは天地の開きがある

と思うのです。

信心深い行為というのかもしれませんが、今回目の当たりにした行為は決して否定的なものではなく、目にした瞬間私は暖かいものに包まれたような、将に神々しい瞬間であつたように思えたのです。

今の日本では、（確かにそういった事例に事欠かないのも事実ではありますが）宗教的なものを胡散臭げに捉えることが少なくありません。マルキシズムが嫌いな私ですが「宗教は阿片だ！」には納得していたりもする有様……

ですが、昨日のあの二人の行為は、遠慮がちに通り過ぎる車は何なのかと考えると、やっぱり今に残る日本の伝統というか信仰というか文化なのだろうと思うのです。そしてその文化の心地良い瞬間を体験したと言うことなのでしょう。

お見送り後、帰宅する私は商店街の店々に興味を覚えたのですが、自分が喪服であることに気づき、不謹慎な行動は故人と遺族の評判を落とすことになると思い至りました。「xxさんの所の参列者は不謹慎だねえ」等と町内で悪い評判になったら大変です。二人の尊い行為で受けた感銘を自ら汚す行動です。

私は告別式の体験を反芻しながら商店街を後にしました。



此処しばらくは私はファンタジー小説を好んで読んでいます。

勇気や信念、思いやり、謙虚さ、慎ましき、愚直さ、献身……、現実世界ではそういった多くの美德を評価することを拒むかのような風潮があるように感じられるのです。

ところがファンタジーの中では違います。

誰憚ることなくそれらの美德が活かされ、世界を動かす原動力として描かれています。私にはそれが心地良いのです（現ではあまり正直に生きては居ない私ですので……）。

現実世界もファンタジーのように正しいものは正しいと、駄目なモノは駄目といけば良いと思うのですが、夢と現は遠いのであります。昨日、二人の振る舞いを目の当たりにした時、ファンタジーのように美德とされることをそのままに振舞えたら格好良いのではないかなあ〜と改めて考えさせられたのでした。

理屈はもう止めます。

今回は「仏様となった故人が私に（気づきと言う）ご褒美を下されたのだ」と、そう思うことにします。その方が考えていて楽しいし、なにか少し力が湧いてくるような気がするのです。だから少しだけ、ファンタジーとの距離を縮めて見ようと思うのです。

この際、自分のことを棚に上げて叫んでみます。

「今の世の中、ファンタジー成分が不足している」

と、

何時如何なる時でも私は作者の敵の敵だ!!!【10月23日書直し】（前書き）

今回は、私のエッセイに対する次の感想に対する反論です（本文後書きにに原文を全文複写しておきます）。

「投稿者…通りすがり 「2011年 10月 10日 （月） 18時 15分 41秒」

幸か不幸か非登録者の書き込みなので、思う存分反論します。

穏やかな雰囲気は欠片も無いので、その手の論争が嫌いな方は今回は読み飛ばして下さい。

勝手な物言いですが、何卒よろしくお願いいたします。

何時如何なる時でも私は作者の敵の敵だ!!!【10月23日書直し】

先ず、

＞ただ自分の思ったことをぶちまけたい自己満足主義者とは違うのかな、と。

には感謝いたします。

批判をしているのですから、今回のような批判はもとより覚悟の上です。

批判の門戸を開放する。これが文才の無い私が唯一誇れるところなので……

それでは反論に移ります。

＞他の意見を排斥するような書き方はいただけない。

貴殿の意見は明らかに矛盾しています。

私の意見は排斥なのだからという理由で貴殿自身が私の意見を排斥しています。

何故、貴殿が私の意見を排斥することは正当で、「私の排斥」は排斥されなければならないのか？

ということです。

これは貴殿が論理的に間違っているから生じる矛盾です。

自由という概念を理解できていないことによって生じる論理矛盾で

す。

私は貴殿のような方とトコトン討議してみたいので、以下に解説します。

先ず、自由ということは、好き勝手（傍若無人）に振舞ってよいと言う事では無いのです。

其処には、原則として「相手の自由を侵さない限りにおいて」という前提条件があるのです。学校では教えないようなので解らない人が多いようですが、そうなのです。

すると次の問題が生じます。甲の自由と乙の自由が同時に成立しない場合です。

多くの場合この自由の衝突も解決する手順があります。

「自由と自由の衝突」これは実社会において政治や宗教上で深刻な社会問題となっています。

自由と言う概念が誤用されると如何に社会を危うくするかということとをこの際解って頂きたいのです。

また、実社会では対処を間違えて更に事態が拗れていく訳ですが、ここで当事者が存在する実例を挙げると面倒なことが起きかねないので、現実には社会問題となっていない例で説明します。

（以降尾籠な例を用います。食事中の方は一服されることをお勧めします）



例題として、ここでは おなら（屁）をする自由、「おなら権」というものを考えてみましょう。

さて、これは何処でも行使してよいものでしょうか？
先ずは、我慢出来ずに、思わず出てしまったと言うケースを除外して考えて下さい。

人の顔がそばにあるとき「おなら権」の行使は出来ません（出来ますか？）。

多くの人が食事をしているところでは通常「おなら権」の行使は出来ません（出来ますか？）。

そういった処で「おなら権」を徒に行使すれば相応の評価が、一定

の制裁（食事に誘われなくなるとか、着席と同時に周囲が離席するとか）が待っています。これはおならを嫌がる自由が認められていて、おならを嫌がる自由が優勢だからです。

では、トイレでは如何でしょうか？

誰憚らずおなら権を行使する事が出来るし、もしそれを「排斥」しようとするれば逆に「おなら権」の侵害として非難されることでしょう。

先ずは、自由にもTPOがあるということを理解して下さい。

次により厳密に自由と自由の衝突を考えて見ます。

ここに二つの信仰があります。

一つは「処嫌わず教（以降「嫌わず教」とします）」です。何時如何なる時にも「おなら権を行使してよい」と言う教義です。

もう一つは「おなら嫌い教（以降「嫌い教」とします）」です。何時如何なる時も定められた場所以外でおならをしてはいけないと言う教義です。

＜今の日本ではマナーとしては「嫌い教」に近いですね＞

さて、「嫌い教」の教徒が「嫌わず教」教会内の食堂で食事をしていました。

「嫌わず教」の教徒は教義に従いおならをしています。「嫌い教」の教徒はそれを非難できるでしょうか？

無理ですね。「嫌い教」の聖地^{テリトリ}においてその教義を否定する事は出来ません。

言論（行動）の自由？そんなものではありません！！

教会は「（その当該教会の）信仰の自由」が最優先される場所であり、その他の自由は「信仰の自由に反しない限り」という前提条件が適用されるのです。もし、この前提条件が認められないとなると、「何時如何なる時も信仰の自由を踏み躪って良い」という事になってしまいます。こんな事を認めたら即流血の事態です。社会秩序は崩壊してしまいます。ですから自由を守るためには自ずと他の自由は制約されるのです。通常複数の自由は同時には成立しないのです。自由とはそれを守るために他の自由を我慢するという制約の下で初めて成立し得るのです。

言論の自由は少なくともその教会内では停止されます。言論の自由を行使したければ、その教会の敷地から退くことが求められると言うのが自由ということの成立条件になっているのです。

ここで、脱線して無難な例を挙げます。

葬儀の場において、故人に対して（言論の自由の行使として）罵詈雑言を浴びせれば袋叩きに遭うことでしょう。加害者には傷害罪が適用される可能性があります。同時に説教等妨害罪も適用されることでしょう。そして、余程（親の仇だったとか）の理由がない限り世間は袋叩きにされた方を非難することでしょう。

さて、話を戻して、「嫌わず教」教会内の食堂です。

「嫌い教」の教徒は食堂でおならをする事に抵抗があります。

では「おならをしたいのでトイレを使わせて下さい」と申し出たとき「嫌わず教」の教徒は如何対応するのでしょうか？

素直にトイレを案内するもよし、どうぞこの場で！と促すのも良いでしょう。それは「嫌わず教」の教義が「異教徒」と如何付き合うように説いているか？と言うことに尽きるのです（「嫌わず教」の裁量ということです）。

ですが、「おなら」を理由とせず単に「トイレ」に行きたいと告げた場合は如何でしょう？

本当に用を足すのかもしれないし、おならの方便かもしれません。ですが、事前の取り決めがない限りこれは案内するしかありません。何故ならその理由は内面（心の中）の問題であり、外部からは計り様が無い事なのです。そして「嫌い教」の教徒を教会に入れた以上、教徒の内面には教会の敷地であっても立ち入れないからです。内面に干渉するのであれば事前に棄教を求めなければ行けません。

つまり、「嫌わず教」教会内で「嫌い教」教徒は「おなら」に対して文句を言えないが、自らが教義の逸脱を強いられる事も無い

という事になります。

次に「嫌い教」教会で考えてみましょう。

教会内において「嫌わず教」の教徒は教義を実践出来るでしょうか？当然出来ません。

「嫌い教」の教義が最優先される聖地だからです。これは前述の事例と同じです。

ところが「おなら」は意図せずとも出てしまう事があります。この場合は如何したらよいのでしょうか？

きつと「嫌い教」にはその様な場合に対する対処法が用意されているはず。

それが適用されると言うのが常識的なところです。ですが、その適用を拒絶した場合どうなるのでしょうか？信仰を踏み躪られるのですから、結構危ない事になります。

こういう場合は事前の取り決めが必要です。

「教義に抵触した場合は教徒と同様の処罰に同意します」と約束するのです。

この取り決めは暗黙のうちに交わされることに留意してください。外国に出かけてその国の法律を知らなければ守らなくて良いと言う理屈が通用しないことから明らかですネ。

日本には「郷に入りては郷に従え」という解りやすい言葉があります。

先人に感謝感謝です。

複数の自由が同時に成立しない場合常に優先する自由の下、他の自由は制約されると言うことが、「自由」を担保する前提条件であることを理解頂けたものと思います。その場その場で自由には優劣があるのです。



さて、それでは貴殿の意見に対する反論です。

＞確かに、貴方の理論は貴方の生活しているある一定のコミュニティ……『自分の作品の質を向上しようとも思わないアマチュア中のアマチュアしかないきわめて閉鎖的な』環境では通用する理論なのでしよう。

このサイト「小説家になろう」では「アマチュア中のアマチュアしかないきわめて閉鎖的な」あり方を禁止していますか？

あるいは「アマチュア中のアマチュアしかないきわめて閉鎖的な」存在を否定する事を推奨していますか？

どこかにそのような規約があるのであれば是非提示下さい。

また、夫々の作者が何故「アマチュア中のアマチュア」との貴殿の評価に従わなければ成らないのでしょうか？

感想書き込み時の注意書きを見ると貴殿の主張の反対方向に軸足があると思いますが……私に認識が誤りである証拠を、或は貴殿の考えがご自身の個人的な見解ではなく、相応の説得力を伴うものである証拠を提示下さい。

貴殿は自身の思い込みで行動を正当化しようとしているように見受けられます。

> ですが、このサイトにあるのはそんな作品だけではありません。
その通りです。それを否定したことは一度もありません。

> あくまで『読み物』なのですから、それを読んでもらう読者に
分かりやすい形式でなければならぬのは当然のことですし、作品
をよりよいものにする為に批判はとても大事な意見です。

それは貴殿が決めたことです。「小説家になろう」、「なろう」で
あって「小説家です」ではありませんが…、実際に読者に楽しさを
提供していない貴殿が一方的に断じる事が何故出来るのでしょうか？

貴殿のルールは貴殿のテリトリーで存分に主張して下さい、貴殿の
サイトなり、ユーザIDを取得され、貴殿がその主張を小説として
綴れば良いでしょう。将に勝手にして下さいです。

ですが、此処は私のテリトリーです。このサイトの運営者や敬愛し、
感謝してて止まない作家の方々以外の干渉は余計なお世話です。意
見は意見として歓迎しますが、唯々諾々と受け入れるつもりは毛頭
ありません。私がルールです。

> その批判を『作者の創作意欲を削ぐものでしかない』と断じてい
るのは、非常に『歪んでいる』と言わざるを得ません。

歪んでいるのは貴殿です。単に自分勝手な行動を正当化したいだけ
でしょう。

私は、「空気を読め」と主張しているのです。作者作者毎に考え方は千差万別です。

貴殿や貴殿と同じ考えの作者に対しては「どうぞご存分に」であります。

しかし、「そうでない作者の処に正義漢面で土足のまま上がりこみ、狼藉の限りを尽くすような事をするな!!」と主張しているに過ぎません。

ここで重要なことは、「何が土足で、何が狼藉であるか」ということは、「押入った貴殿」ではなく「押入られた先の作者」が「その主観に基づき決める」ことです。人の嫌がる身勝手な行動を偽りの善意で装飾し、押売りされたのでは堪りません。

外国旅行を考えてみれば解ることです。

その国の法律を遵守する事が無条件で求められます。

そのとき、訪問先の国が貴殿の価値観を受け入れ自国の法規を違えるでしょうか？

当たり前のことです。

上から目線で物事を決め付けた主張をするのであれば最低限この程度の道理は踏まえて頂きたいものです。

>この感想欄にもそんな考えに同意している作者さんがおられるようですが、私から言わせれば『そんな考えで書いてるならチラシの裏に書きなぐっていいのに』といったところです。

少なくとも、私はそんな作者の味方です。

そして、貴殿はどれだけ多くの読者を挑発しているか自覚できていますか？

無知と不明がタッグを組むとある意味無敵であると言う見本を示していただきました。

貴殿は私に今回の反論を用意させる以外何の意味を成さない存在です。正直、私の処で作者を侮辱する行為をしなければ、此処まで反論する事（価値）も無かったでしょう。

「ここがチラシの裏でない」と決めるのは貴殿では在りません。サイトの運営者であり、次に夫々の作者です。

何故、このような身勝手な思い込みを主張できるのか？
理解に苦しみます。

因みに、此処、私「シレン」のテリトリーは「チラシの裏」です。
このテリトリーの主たる私がそう決めました。
通りすがりに過ぎない貴殿にこの決定を覆す手立てがあれば是非お示し下さい。

> 大多数の人に見られる場所なので、見苦しい文章を晒さないように努力するのは当然の義務ですよ？

そんな義務はありません。何時誰が決めたのですか？その決定が有

効に適用される範囲を含め明示して下さい。勝手な思い込みで同意を求められても、常識が肯うことを拒否しています。

見苦しい文章と云う意味では貴殿の感想こそが最低です。

私が最低と決めました。貴殿の主張に則り直して下さい！！
その義務があると主張したのは他ならぬ貴殿です。

貴殿は自説で、「アマチュア中のアマチュア」でない限り批判に応じ作品を高める義務があるとの主旨の主張をしています。

私の批判に対して、応じる事が出来ますか？

「自身で主張していることを自身が守らない」と言うことであれば、その人に他者を批判する資格があるのでしょうか？

また、その様な人の批判に価値があるのでしょうか？

私には理解できません。

「小説家になろう」において拙さを制限するルールはありません。
幼い子供がこのサイトを利用していいのかもしれないのです。

この場で子供が成長して行くのは素晴らしい事ではないですか！？
そして、子供が頑張っているのだろぅなぁと文字の向こうの見えぬ作者の存在を思いながら見守る事を楽しみとしている読者がいるかも知れないのです。

その作者と読者の楽しみを奪う、その世界を踏み躪る権利が誰にあるのですか？ 一体誰に人の楽しみを奪い去る権利があるのか説明して下さい。

貴殿の主張には「個人的な思い込みで無く相応の根拠があるものだ」と言うことが全く見えません。

この様な主張は「アマチュア中のアマチュア」と何処が違うのですか？

【作者の方へ】から抜粋

こんな方でも大丈夫です

■小学生なんですけど

■今年、定年なんですが……

■80歳になるのですが……

■主婦だけど大丈夫？

これ見て書込みをしたのでしょうか？

漸く自作を始めた幼き子供（かも知れない）相手に貴殿の主張通りの行動を取ったら如何になりますか？

それは正しい行為と言える主張できますか？

貴殿は屁理屈を並べているが、「人の嫌がる行為を正当化したいだけ」としか読み取れません。

貴殿の様な社会性が欠落し相手を労わり、思いやる心の無い人間こそが私の敵なのです。

最後に貴殿が「通りすがり」である事に感謝していることを申し添えておきます。

万一、敬愛する作者の方から同様のお叱りを頂戴したら、おそらく我が身が引き裂かれていたでしょうから

「何時如何なる時でも私は作者の敵の敵だ!!!」

と繰り返しておきます。

【もう少し穏やかな反論】SF小説…星界の紋章内の独白「積極的な善人」から

<http://www.satanic.org/sur/sur064.html>

【10月23日大幅に変更】

変更前の内容は「チラシの裏を丸めて○○箱へ」内の同タイトルに保存しました。

何時如何なる時でも私は作者の敵の敵だ!!!【10月23日書直し】（後書き）

以下原文のまま、

投稿者…通りすがり

〔2011年 10月 10日 （月）

18時 15分 41秒〕

▼良い点

思ったことをきちんと文章にできている点。

私のようなユーザ登録していない読者にも感想の門戸を開いているあたり、ただ自分の思ったことをぶちまけたい自己満足主義者とは違うのかな、と。

▼悪い点

だからといって、他の意見を排斥するような書き方はいただけない。貴方の意見は、貴方やごく少数の人にしか受け入れられない独りよがりな考え方なのですから。

▼一言

確かに、貴方の理論は貴方の生活しているある一定のコミュニティ……『自分の作品の質を向上しようとも思わないアマチュア中のアマチュアしかないきわめて閉鎖的な』環境では通用する理論なのでしよう。

ですが、このサイトにあるのはそんな作品だけではありません。

あくまで『読み物』なのですから、それを読んでもらう読者に分かりやすい形式でなければならぬのは当然のことですし、作品をよりよいものにする為に批判はとても大事な意見です。

その批判を『作者の創作意欲を削ぐものでしかない』と断じているのは、非常に『歪んでいる』と言わざるを得ません。

この感想欄にもそんな考えに同意している作者さんがおられるようですが、私から言わせれば『そんな考えで書いてるならチラシの裏に書きなぐっていいの』といったところです。

大多数の人に見られる場所なので、見苦しい文章を晒さないように努力するのは当然の義務ですよね？

原文以上

再反論があれば感想にどうぞ、

ファンタジーで良いではないか!【10月23日前書き追加】(前書き)

H23. 10. 23追記

当話は「郁也門」さまの『何故異世界転生ファンタジー小説だらけなのか』に対する反論として綴ったものです。

その旨を明らかにすることについて快諾下さった「郁也門」さまのご判断に無条件の感謝と敬意を表します。

ファンタジーで良いではないか!【10月23日前書き追加】

私はファンタジーが好きです。「小説家になろう」ではファンタジーが多い事を揶揄する意見もあるようですが、私はそれに与しません。

推理やSFも好きですが、ネット小説ではそれらの作品は比較的小さいのです。母数が少なければ出会う機会も限られます。対してファンタジーは面白いお話が綺羅星の如くあるのです。

それにファンタジーは何と言うか作者の感性がそのまま面白さと直結していると思うのです。

もし刑事が推理小説を書いたら、業界の裏話的な面白さという圧倒的な地の利があることでしょう。ですがそれは居酒屋談義のように、夫々の職業を経た人達がそのならではの体験を語ればつまらない訳が無いというのと同じだろうと思うのです(勿論人気作品となることが約束されている等とは思いません。「ある程度までは」です)。

SFであれば科学的な基礎知識、推理であれば犯罪捜査や司法制度に対する知識などが求められると思うのですが、ファンタジーではそれがありません。他のジャンルに比べて少ない制約条件下で創作が可能であると思います。しかし制約が少ない、自由度が高いということは決して面白い作品を容易に生み出せると言う事では無いと思います。

これは論述試験で考えてみると、SFや推理は課題選択式であるのに対し、自由課題に相当するのだらうと思うのです。課題選択で

あれば得意分野が出題されるか否か、と言う運（感性や表現力以外の能力）の入り込む余地がありますが、自由課題ではその様な運不運はなく、ただただ素の実力が求められると思うのです。

私はファンタジーはこの自由課題と同じで、「業界の裏話的」な近道（科学知識や犯罪捜査等の専門的知識が大きな利）とならない、殊更に作者の素の力量（感性と広い意味での表現力）が求められるジャンルだと思うのです。

私が筋書き以外にファンタジーで楽しみにしているのは、作品を通して垣間見える作者の人柄です。何を訴えたいのか？ 何を大切にしているのか？ 今までどんな体験をしてきたのか？ 老若男女の何れなのだろうか？ 全てが解る事は無いでしょうし、詮索すると言うわけでもありません。ただ作品を介して伝わってくる作者の人柄も楽しみの一つです。その意味では雑音と成り得る他の知識や経験が直接披露されることが少ないファンタジーというジャンルでこそ、効果的に伝わるのではないかと思います。

少々照れくさい表現ですが、真心を伝えるのに技術は不要だ思うのです。これは拙い言葉で懸命に何かを伝えようとする幼子との交流を考えれば明らかなことです。人柄の伝達媒体として作品を考えたととき、その巧拙はさして重要ではないと思うのです。個人的には商業作品と同じ物差しでネット小説の作品を測る必要を感じません。もし楽しく読む方法があれば、読者である私にはそれが正しい読み方だと思うのです。

それに私のような読者の立場であれば、SFや推理小説で特に準備（調査）が必要となるのであればその期間はお話が読めない訳で、であれば作者の感性で勝負のファンタジーの方が公開の時期も早いであろう分だけありがたいと思うのです。

また、発展途上の作者の作品であっても楽しみ方は色々です。完成度は高いほうが良いのですが、ネット小説で徒にそれを追い求めるよりも身近な作者の身近な作品としてネット小説ならではの楽しみ方があると思います。勿論それはファンタジーに限った事では無いのですが……

と言うことで、今日も私はファンタジー小説を読んでいるのです。

親（作者）の心子（読者）知らず

「親の心子知らず」とはよく言ったものです。私はこの駄文を綴って今、気付いた事が一つあります。

私は少なからぬ作者の方々が「読んでくれてありがとう」との一言を毎話毎話で表していることを今まで、丁寧過ぎるのでは、謙讓に過ぎるのではとの思いを抱いていました。

「感謝する」のは「読者」で、「作者」は「感謝される」立場だろうに思っていたのです。

ですが、実際に感想を頂き、アクセスの結果を確認し、お気に入り登録や評価を頂くと。「ああ、ありがたいなあ」としみじみ思うのです。

「何で一々ありがとう」と思っていた自分が、作者のお気持ち解っていないかったのだなあと思ひ知らされました。「作者の心読者知らず」なのです。

今回ほんの一部を垣間見たとは言え、きっと私はまだまだ親の心の解らない子供なのだろうと思います。ですが、それがこのエッセイにおける私の立場であり、これから「早く続きを読みたい」「作者には元気でいて欲しい（続きが読みたいから）」「実生活でも充実していて欲しい（創作意欲が衰えないように）」との思いで綴り続けることに致します。

と言うことで、今回「あらすじ」に【お断り】を追加すると共に評価を公開することに致しました。

当初は評価に値するような作品ではないと思っていたのですが、如何なる形であれ評価を受け入れ、その結果を晒す方が潔いと思い直したのです。これでもう少し作者のお気持ちに近づければとも思うのです。

今まで応援して下さい下さった方々に改めて感謝いたします。

本当にありがとうございます。

よろしければ、これからお付き合い下さいますようお願いいたします。

余話：現代はファンタジーが不足している

もう随分前のことです。

サンデープロジェクトと言う番組で林業の衰退による土石流の増加を取り上げていました。

広葉樹の原生林を伐採し、材木として利用価値の高い針葉樹を植林する。針葉樹は手入れを欠くと枯死が増えるとのことでした。ところが輸入木材に押されて林業の採算が悪化し、植林の保全が出来なくなっているため実際に山林が荒れているのが実情とのこと。

元々広葉樹に対して保水力の低い針葉樹の林が荒れるてしまうと更に保水力が低下し大雨による土石流が増えるのだそうです。

それを土木工学や植物学の偉い先生が時間を掛けて説明していました。結構難しい話で、小学生では一寸無理、中学生でも厳しいかなあ〜と言うのが私の感想でした。

その時、ふと気付いたのです。もしも、

「勝手に人間の都合で山の木々を植え替えたのだから、せめてその植え替えた木の面倒を一所懸命看ないと、放って置いたら山の神さまが怒って罰を下されるよ」

と言えば如何なのだろうか、

きっと結構幼い子供にも伝わるのだらうと思うのです。

これは「迷信」でしょうか？

それとも「生活の知恵」なのでしょうか？

工学では、シンプルイズベストと言う思想があります（私もその信者です）。

単純であればある程、一部の人しか解らないよりも、より多くの人
が理解できる方が優れた手法であると言う考え方です。

山の神さまを敬い大切にすることで山津波（土石流）を防いで（
加護を）貰える。

これは（神との表現を棚上げすれば）事実でありかつ誰にでも解
り易い説明です。

もし、生活の知恵であると考える事が出来るのであれば、生半可な
科学知識が山の神を否定し生活の知恵を妨げたと言うことになりま
す。

そして「生活の知恵」と考えるよりも山の神さまを敬いその聖域
に畏怖の念を抱くことにより生活の安全（山津波からの防災）が得
られるのであればそれを「神のご加護」と感謝し、愈々神さまを大
切にする……、何かこの方がロマンがあるし守る上でも肩が凝らな
いような気がするのです。きっと不法投棄なども起こり得ないでし
ょうし……。

やはり現代はファンタジーが不足していると思うのです。

今回はもう一つ、本当に悲しい形で思い知らされたことがあります。

この様な形で取り上げるのはとても不謹慎なことなのかもしれません。紹介いたします。

ご存知の方も多いと思うのですが、

平成23年3月30日 読売新聞配信 「此処より下に家建てる
な…先人の石碑、集落救う」

記事は、

岩手県宮古市姉吉地区は昭和8年の三陸大津波の後、海拔約60メートルの場所に石碑を建てた。そこには、

「高き住居は児孫じそんの和楽わらく 想へ惨禍の大津浪おおつなみ」（都都逸の定型です）

と刻まれていて、その訓えを守った集落では今回の大津波から全員が難を逃れる事が出来たと伝えていきます。

（記事全文はこちら）

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20110329-OYT1T00888.htm>

子孫の安寧を願う石碑を刻んだ先人、石碑の訓えを守り抜いた集落の人達、両方とも凄く格好良い（熱く感じさせるものがある）と思うのです。悲しいニュースが多い中、当時フアンタジー映画のク

ライマックスに出会ったかのような感動を覚えました。

先人達はきつとこの悲惨な災害を少しでも子孫から遠ざけたい、それが生き残った者の務めであり、命を落とした仲間達への手向と考えたのだらうと思うのです。あるいは本当に鎮魂式（追悼事業）の一部であったのかも知れません（勿論本当のところは判りませんがそう思うと大切な人達を失った悲しみがより鮮明に思い浮かぶのです）。

今回の大地震で、私たちは科学技術において取り返せない大失態を犯してしまいました。その一方で先人の伝承により命が救われた事実があります。

そして、今を生きる私たちも石碑の先人達のように子孫の安全を守るような何かを残せたらよいのと思うのです。そうすれば先人達が代々守り治めてきた大地を放射能で汚染してしまったと言う、この大きな罪を幾許かでも償えるのではないかとそう思うのです。

法律とか自由とか権利とかそういう新しく出来た言葉に囚われな
いで、迷信だ時代錯誤だと先人の訓えを蔑ろにするよりも日常生活
にもう少しファンタジーを取り入れた方が私たちは幸せに近づける
のではないかとそう思うのですが如何でしょうか？

感情的になっても良い時が在るはずだ

「喜怒哀楽」

喜楽はともかく、怒と哀を明らさまにすることを憚る文化が日本にはある。確かに怒りを堪え、哀しみに耐える姿には胸打たれるものがある。私にもその覚えはある。

だが、何事も例外はある。私は不当に親を馬鹿にされたり、友を侮辱されたときは無理に怒りを堪える必要は無いと思っている。

その報復なり制裁を実行する際には最低限の理性を残す必要を認めるものの、基本的には怒りを露にして良いと思う。むしろ、親しき者を不当に貶められて冷静で居られる人間の方が信用できないと思うのだ。

特に幼い我が子が大人に苛められている様な時、親は子供の前で怒りを露にした方が良いと思う。普段は自分に厳しい親がイザという時は自分の味方なのだと実感した時、親子の絆は深まるだろうし、その逆は子供の心に傷を残すことになるのだろうからに。

事故や天災の様な悪意無き理不尽に対して怒りを堪える姿には気高いものを感じるが、悪意ある理不尽に対しては必要以上に感情を抑制する必要は無い。

自らの身に降り掛かった理不尽に対してその場に居た友の激怒により救われた経験を有するのは何も私だけではないはずだ。

確かに、感想について多くの作者は不快な内容でも黙って堪えておられる。だから（エッセイの）作者としての私に対するモノであれば、敬服すべき先輩方に倣い慎んで承ろう。

だが、読者としての私には堪えられない怒りがあるのだ。それは別なのだ。「激情に身を委ね周囲に当り散らすことと正当な怒りの発露は全くの別物だ」と、そう思うことにしよう私のテリトリーに於いては……

感想に於ける「感情的」とのご指摘に対する私の考えを此処に記しました。何故か今回は一寸堅苦しい文体に成ってしまいました（苦笑）。

お目通し下さりありがとうございました。

（エッセイ本文よりも感想への返信に気合が入っている最近です）

神に見捨てられた、或る民の嘆き

（ これは神に見捨てられた、或る民の嘆きである ）

また更新が凍結された。またもやである。

続きを楽しみにしていたのに、暫くお預けとなる。

創世神たる作者のご神意とあれば一民に過ぎない自分に抗う術など、否、異議を唱える権利など無い。

だが、そのお話を読んでいた自分は今死んだ。もうその世界に未来は無いのだ。

私が転生できるか否かは神（作者様）次第である。

今まで感想など書いてこなかった。神に対して感謝の意を表してこなかった。

神への感謝を忘れ、見捨てられた民の末路など知れた事だ。それが今の自分だ。

そう言うことなのだ、不敬の報いと己が怠惰を呪いつつ暫く後悔に打ち拉がれることになるだろう。

だが、今は敢えて己が死を、神の更なる発展の為、贄に捧げたのだと、そう言い聞かせることにしよう。

己が骸に縋って泣き叫ぶよりも、崇め敬う神の更なる発展を思い祈ることの方が前向きなのだから……

これが、神に見捨てられた、民の嘆きである。

追伸

感想へのお返事は今暫くのご猶予を賜りますようお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4144w/>

ネット小説の読者として

2011年11月13日14時23分発行